

C-Basket研修 紹介資料

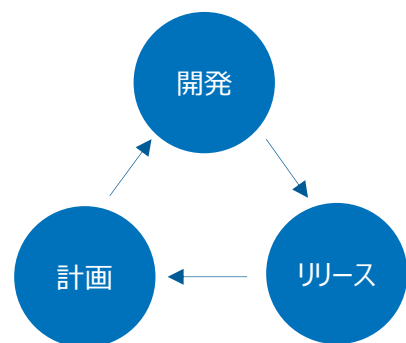
求められるクラウド人材

継続的なビジネス成長のための経営課題の1つは 質と量の伴うクラウド人材確保

より**即戦力**

- 提供スピードが価値となる時代
- 案件参画後、立ち上がりのスピードも期待される

アジャイル開発の例



サービス提供を早めるために
クラウド環境の提供も早めたい

↓
経験者をアサインしないと
期待に応えられない

より**高スキル**

- 技術のコモディティ化、誰でも簡単に構築できる時代
- 動けばよいではなく都度最適な決断が求められる

ソリューション選定の例

一般的なベスプラに加え、**組織/PJ制約から最適解を判断**



A案

- 高可用性であり拡張性にも優れる
- コストが非常に高い



B案

- 非機能は一部運用対処でカバー
- コストは中程度



C案

- 非機能レベルは低いがデリバリ最速
- コストは安い

立ちはだかるクラウド人材育成課題

案件は最良の育成環境であるが...

案件のみで都合よく育成できない



リアルな現場の声

- オンプレミス案件のため、クラウドを学べない
- 特定のサービスには詳しいが体系的に学べない
- 新しい技術/サービスを活用する機会がない

外部環境

- IT人材不足、経済産業省が警告
- 採用技術は多様化し専門領域が拡大
- 新機能のキャッチアップとアップデートに追従

クラウド人材の育成は
OFF-JT(研修等)も活用した戦略的な営みが必要

Why AWS ?

クラウド人材の育成は全てのパブリッククラウドをターゲットにしているが

AWS人材の拡充は急務

- 圧倒的な案件数であり、要員調達が必須
- 2022年に NTTデータと AWS は戦略的協業を開始



<https://www.nttdata.com/global/ja/news/release/2021/121600/>

AWS人材の育成方針の一例

知識の活用により課題解決が可能な

クラウド開発のリーダーを育成したい

知識の習得

資格取得等の個人ワーク

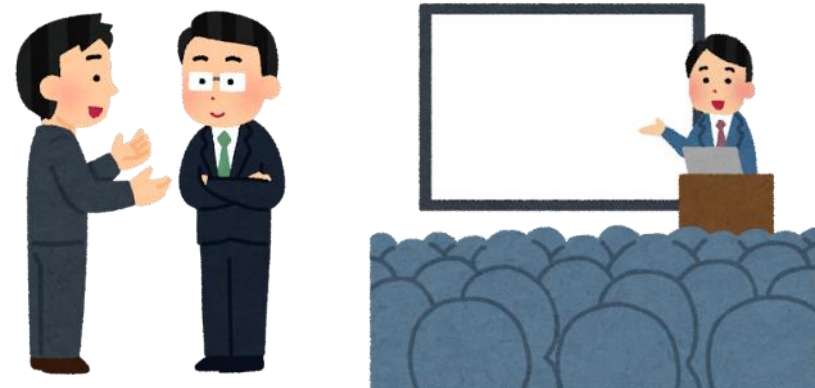
知識を得たものの、本質的な課題を特定できず、時間内にわかりやすく表現できない状態



知識の活用

数ある正解の中から何が最適であるか

課題を特定し、有識者のヒアリングも行いつつ、時間内に適切にアウトプットできる状態



オリジナル研修の提供

AWS様の育成コンテンツを利用せず、オリジナルのAWS人材育成コンテンツである

C-Basket研修を開催して育成

AWS様コンテンツ

自らのペースでAWSを触りながら学習可能！

- AWS デジタルクラスルーム
- AWS Cloud Quest
- AWS Builder Labs
- AWS Jam
- AWS Industry Quest
- 試験準備

<https://aws.amazon.com/jp/training/digital/>

オリジナル研修(C-Basket)

Why 独自研修？

クラウド開発リーダーとなれる人材を育成したい



リアルな案件課題をテーマにトレーニングしたい



NTTデータの開発ノウハウが効果的



コラム(研修名の由来)

“C-Basket” は未処理箱である「インバスケット」を掛けており、クラウドの検討課題における判断力を鍛えたいというメッセージを含めています。

C-Basketの歴史

これまでNTTデータ内および一部顧客と開催していたコンテンツを整備しFY24から本格的な外販を開始
多くの引き合いがあり、FY25の販売拡大に向けた体制強化を実施

FY22

FY23

FY24

FY25

企画

FY22から組織内プロパ向け研修として立ち上げ



ドコモ・NTTCom様と連携して実施



コンテンツをブラッシュアップしながら継続実施中

顧客
提案

FY24から本格的に外販・広報活動を開始。
AWS社と連携したイベント登壇を中心に活動



FY24 4Qにて6社約100名へ提供
販売拡大に向け、体制強化を実施



外部
発信

**FY25からは販売拡大に向けた
体制強化・コンテンツ増強に注力**

C-Basket研修とは

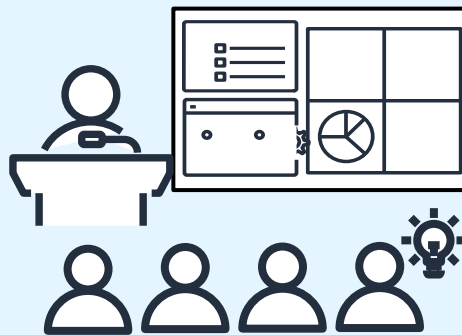
これまでのNTTデータの開発ノウハウを活用して
リアルな課題解決環境を再現

1テーマ
2時間



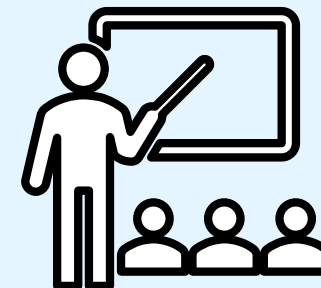
1. グループワーク

研修テーマは当日発表。アドバイザー(有識者)へのヒアリング込みで制限時間内(50分)にて検討を実施します。



2. チーム発表

各チームのアウトプットを全体へプレゼンテーションします。各チーム発表者は当日その場でランダムに指名します。



3. 模範解答

研修講師からの模範解答を発表し、フィードバックを行います。最後に各テーマごとに優勝チームを発表します。

学習効果

複数回繰り返すことにより

クラウドの問題解決能力をトレーニング

AWSの知見獲得



- ・クラウド知見の習得
- ・アーキテクチャ特性の理解

問題解決/表現力の向上



- ・知識の活用方法を学習
- ・時間内でのアクション

エンジニアリレーション形成



- ・担当外エンジニアと連携
- ・キャリア形成やモチベーション向上へ

技量	内容
技術力	クラウドサービスの特徴を理解し技術の活用方法/アーキテクチャパターンを学習
調査力	情報の調査/検索スキル、最近ではAIの活用も効果的
問題解決能力	問題の把握、課題の特定/分析/解決策へ向けた道筋を立案
アウトプット力	限られた時間で要点をまとめる力
ヒアリング力	質問方法の工夫や、有識者への質問に対する心理的ハードルを改善
ファシリテーション力	時間配分やチーム内の役割分担等、ゴールへ向けた場のデザイン
プレゼンテーション力	自らの言葉で周囲にわかりやすく表現する力
観察力	他者の進め方/アウトプットを観察し、真似することによる学習
コミュニケーション力	初対面でも成果を出す進め方、短期間で成果を生み出す関係構築
リレーション構築力	参加者/アドバイザー等のエンジニアとの継続的なつながりを形成

問題のサンプル

あなたたちは、大手キャリア様を相手にしたシステム開発リーダーとして従事しているクラウドエンジニアです。
ある日、新規サービス開発へ向けた検討中にAWSを活用したシステムアーキテクチャについて相談がございました。

お忙しいところありがとう、新規サービス開発の検討を進めているのだけど、やりたいことが山盛りになっており非常に大規模なシステムになりそうなんだよね、とはいえある程度の分類に分けて検討を進めていこうと思っているので、個別の機能検討内容について相談させてほしいんだ。

今回はWebのアーキテクチャについて相談したいのだけど、実行基盤はコンテナで考えているんだよね。Amazon API GatewayやAWS Lambdaのようなサーバレスも考えたけど、まずはモノリスにしたコンテナでのデプロイで開発のスピードやテストのメリットを享受しようかなと。ただ、AWSのコンテナ実行のサービスは複数あるみたいなので、どんなパターンがあって我々はこういったサービスを採用したらよいか検討のアドバイスをもらえるかな？

あと最近脆弱性についてニュースになっていたよね。コンテナも脆弱性管理が必要と聞いたけど、AWSってどのようなサービスで脆弱性を検知できるんだっけ？ 検知できるサービスは複数あると聞いたことがあるので、よかったらその違いについても説明してもらえるかな？
検知したらSlackに通知するような運用を考えたいので、余力があればこちらの方式についても推奨案をアドバイス頂けるかな？

ちょっと席を外すので、1時間後にこちらの内容についてパワポ3～4枚程度でまとめてもらえるかなー。
かなり急な依頼で申し訳ないけど、よろしくね！

C-Basketテーマ例

参加者の課題感や想定レベルを伺いつつ、
テーマを選定することが可能です。

#	テーマ	難易度
個別テーマ	<u>情報収集</u> (ベストプラクティス参照/AWS窓口/認定資格等のAWSの基礎情報把握)	初級
個別テーマ	<u>セキュリティ基礎</u> (責任共有モデルの理解)	初級
個別テーマ	<u>コスト</u> (サービスの課金体系の基礎理解/サンプルアーキテクチャにおけるコストオーダーの理解)	初級～中級
個別テーマ	<u>コンテナ・環境差分</u> (サービス選定/環境差分管理方式)	初級～中級
個別テーマ	<u>アクセス制御</u> (開発者のみのアクセス制御/制限下の開発方法)	初級～中級
個別テーマ	<u>データ暗号化</u> (Aurora機能/適用箇所/性能影響)	初級～中級
個別テーマ	<u>セキュリティ実践</u> (キー情報の管理/不正アクセス/脆弱性管理等の予防的統制や発見的統制)	中級
個別テーマ	<u>機能比較・トラブルシュート</u> (APIGW/流量制御/SPAトラブルシュート/エンジニア育成)	中級～上級
個別テーマ	<u>高度なDR戦略</u> (Under Construction...)	上級

開催実績

FY24から本格的に外販を開始以降
反響が大きく徐々に拡大中！

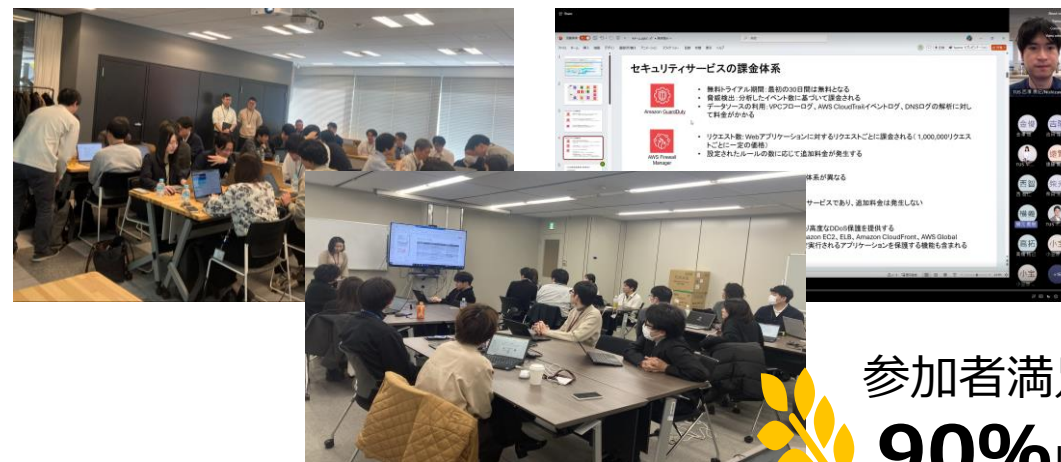
実施実績

個社・共同開催にて研修提供
エンジニアレーション拡大中



開催風景

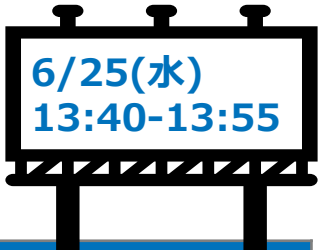
オンライン開催/現地開催など
柔軟に対応可能



参加者満足度

90%以上

事例共有① | NTTドコモ様



本日はC-Basket研修に実際にご参加いただいたNTTドコモ様よりコメントを頂戴したいと思います

項目	実施概要
開催日	2025/2/7(金)、14(金)13:00-17:00 ※2テーマ連続×2週で実施
開催場所	ドコモ様オフィス
受講人数	30名程度
参加者レベル	初中級者レベル ● 利用したことがない ● 基本的なサービス（例: EC2, S3）の操作経験がある ● 開発や運用にAWSを日常的に利用している ● AWSでインフラ設計・構築を行った経験がある
テーマ	①情報収集 ②セキュリティ基礎 ③コスト ④コンテナ

事例共有① | NTTドコモ様

6/25(水)
13:40-13:55

Q : 受講前と受講後で、普段の業務の進め方において変化がありましたか？

Q : 自身のエンジニアスキル向上において本研修は役に立ちましたか？

Q : 研修の中で特に印象に残った出来事は何ですか？

Q&A

Q : この研修を他の人にも勧めたいと思いますか？

Q : 一緒に受講したメンバとの交流から得た学びはありましたか？

Q : 講師やチューターとのやりとりで感じた実践的な学びはありましたか？

事例共有②

NTT東・西・データ合同開催

6/25(水)
16:20-16:35

NTT 東日本

NTT ビジネスソリューションズ

NTT DATA

NTT東日本・NTTビジネスソリューションズ・NTTデータの3社合同で開催。対面でのグループワークやプレゼンテーションを通じて**クラウドアーキテクトの育成とエンジニア同士のリレーション構築**を実現しました。参加者はAWSの理解度を大幅に向上させ、実務に役立つ知識とスキルを習得。**同じグループ会社のエンジニアから刺激を受け合う貴重な機会**となりました。

お客様の声

- ・ 実務に近い形でのワークにより、**すぐに案件で使える考え方**やビジネス的な観点を身につけることが出来ました。
- ・ 実践的であり、グループ間でのコミュニケーションを図れるところが大きいと感じました。
- ・ AWSの知識だけでなく、短時間でアウトプットを出す方法や**発表などの能力向上**の機会となりました。

導入背景

社外エンジニアとのリレーション構築を図るとともに、顧客の課題解決やビジネス拡大を支援できるITアーキテクトの育成を目的として導入。また、**社内における人材育成施策**の一環として位置づけられており、技術力の強化とあわせて、外部との接点拡大やナレッジ共有を推進する狙いで実施。

育成担当者コメント

- ・ グループワークの発表者はその場で指名するというルールだったため、**よい意味での緊張感がある中で全員が主体的に参加**できていてとても良い研修だった
- ・ 若手エンジニアが**社外のエンジニアとの交流機会**を持つことで、よい刺激を与えることができてよかった
- ・ エンジニアのみならず**営業側の人たちにも是非受けてほしい内容**だと思った。



研修内容の説明



各チーム発表の様子

事例共有② | NTT東・西・データ合同開催

6/25(水)
16:20-16:35

Q : 受講前と受講後で、普段の業務の進め方において変化がありましたか？

Q : 自身のエンジニアスキル向上において本研修は役に立ちましたか？

Q : 研修の中で特に印象に残った出来事は何ですか？

Q&A

Q : この研修を他の人にも勧めたいと思いますか？

Q : 一緒に受講したメンバとの交流から得た学びはありましたか？

Q : 講師やチューターとのやりとりで感じた実践的な学びはありましたか？

参加者の声

これまで当社内、お客様企業へ複数回の研修提供を行い、ポジティブなご感想を多数頂いています。



【若手】インフラエンジニア

“短時間でお客様向けを想定したアウトプットを作成する貴重な機会でした。”



【中堅】インフラエンジニア

“実務に即した能力（言われたこと調べるだけでなく、自分の意志で提案する力）を伸ばすことができる研修でした。”



【中堅】アプリケーションエンジニア

“負荷の高い課題を短い時間に取り組むという形式が、タイムパフォーマンスの高い学びに繋がっていました。”



【中堅】インフラエンジニア

“パブリッククラウド初心者でも難易度を徐々に上げていく形で進行していて取り残されることなく参加できたのが良かったです。”



【ベテラン】アプリケーションエンジニア

“実際にアウトプットをしつつ、専門の方から詳しい解説を頂けるので非常に勉強になりました。”

C-Basket 開催概要

#	内容
開催時期	全4回 or 全7回：毎週1回2h等 ※回数や日時はご相談 例：毎週金曜16:00-18:00など
参加者予定人数	最低10名～最大20名前後
開催場所	・ 基本はオンラインTeams開催 ※オフライン開催についてはご相談
実施概要	・ AWS人材育成研修 ・ リアルな顧客課題で約60分グループワーク、3～4名のチームに分かれ時間内にパワポを作成 ・ グループワーク終了後に各チームでプレゼンテーション、その後は解説/模範解答の確認 ・ 先輩社員アドバイザーやAWS様によるリアルタイムのフォローあり
得られるもの	・ AWSサービスに関する体系的な知識 ・ AWS開発案件で求められる問題解決能力 ・ AWS様や周囲のエンジニアリレーションの拡大
参加の目安レベル	<u>初中級者向け</u> 資格目安：AWS Certified Solutions Architect – Associate 保持 経験目安：AWS案件 1～3年 ※あくまで目安であり、過去には未経験者の参加もございました
費用	有償 ※個別ご相談

お問い合わせ先

少しでもご興味ございましたら下記問い合わせ窓口よりご連絡の程宜しくお願い致します。

C-Basket研修問い合わせ窓口
cloudbasket@hml.nttdata.co.jp

営業担当

西澤勇紀 Yuki.Nishizawa@jp.nttdata.com
早志優里 Yuri.Hayashi@jp.nttdata.com

The image features a low-angle, wide shot of a modern city skyline under a clear blue sky. Two prominent skyscrapers with white and blue facades dominate the center. Other buildings of varying heights are visible in the background and foreground. The scene is captured in a cinematic style with a slight color grade. The text 'NTT Data' is superimposed in the center in a bold, white, sans-serif font.

NTT Data